



【暗唱聖句】

どうしても必要なことはわかずかです。いや、一つだけです。マリヤはその良いほうを選んだのです。ルカ 10:42

●**どうしても必要なたった一つのこと**／とは端的に言えば「神の命令に聞き従う」ことです。罪とはすなわち聞き従わないことであり、聞き従うことは全てに優先すべきことなのです（申命記11:27, 28:2, 30:2, 第一サムエル15:22等）。「聞き一従う」という論理的な順番も大切です。聞くことなしに従うことはあり得ないからです。ユダヤ人の掟の第一声が「シェマーイスラエル／聞けイスラエル」と始まるのもそのためです。イエスも「聞く耳のあるものは聞きなさい」と繰り返し言われました。

●**マリヤはその良いほうを**／マリヤは怠けていたわけではなく、ずっ

と座ったままでいたはずもありません。十分に聞き、解散の時が来たなら、早速従うために行動を起こしたことでしょう。ただ、主人が語っている時には、どんなに良いことをしていようと、自分の手を休め、先ず聞_くことが求められていることを彼女は直感的に理解していたのです。

●**選んだのです**／聞き従いたくない自己中心な体質はアダムとエバ以来、人類皆受け継いでしまっています。しかし聞き従うことを積極的に「選ぶ」たびに私たちは「神を愛すること」を同時に選んでいるのだということも覚えておきましょう。神に聞き従うことは、選べば選ぶだけ、次は選びやすくなります。神に聞き従うことはなにか「不自由」になるように思う人もいますが、事實は逆であり、本当の自由は神に聞き従う者にこそ約束されているのです。

【デポーションの確立のために】

～ マリヤ・パウロに倣う ～

▼ 私は自分のからだを打ちたたいて従わせます。第一コリント9:27

●救いは一方的な恵みによりますが残された地上での期間、神からの使命を果たして行けるよう、信仰者は訓練に入られます。●救われた喜びゆえに「神に大いに用いて頂きたい！」と願う人も先ずマリヤのように「じつと黙って聞き」次に「聞いたことを行う」という基礎訓練を地

道に積むことなしには、必ず失敗してしまいます。●**パウロ**は神に逆らう自分の体質に対して、かなりの強制力を働かせなければならないことを語っています。会社員が始業時間や打ち合わせに遅れずに行くのは「会社」が強制力を持っているからに他なりません。同じ人間、本気に神の僕として生きることを決心するなら朝早く起きて聖書を読むことは絶対に可能なのです。習慣化です。

【先週のMESSAGEより】

恵みによって変えられた人生

マルコ3:17、ルカ9:51~56、
ヨハネ19:23~27



「ボアネルゲ／雷の子」と呼ばれたヨハネがなぜ、後に「愛の使徒」と呼ばれるようになったのか。ダイヤモンドの原石が優れた職人の手の中で削られ、磨かれて初めて輝き出すように、鉄が灼熱の溶鉱炉の中で溶かされ、不純物を取り除かれて初めて使い物になるように、ヨハネの訓練のためにはイエスの限りない忍耐、優れた指導の手、愛と厳しさがあった。晩年ヨハネは自分の書いた福音書の中で自分を指して「イエスが愛された弟子」と称している。他と比べて自分の方が特別だったと自慢しているのではなく、イエスの愛によって今の自分があるという謙虚な認識を表現しているのだ。私たちはイエスを主と仰ぎ、イエスの指導の元に自分を低くするだろうか。それとも神の手をふりほどき、自分中心を選ぶだろうか。選択はあなたにある。

【今週の英語】

(Adrian Rogers "Adrianisms" より)

"Going to church doesn't make you a Christian any more than going in the garage will make you an automobile" Billy Sunday

教会に行っているから自分はクリスチャンだと思ふことは車庫に入れば自動車になる、と考えるくらい愚かしい考えである。ビリー・サンデー（プロ野球から転向し、20世紀初頭、全米で最も有名な伝道者になった。彼を通して百万人以上の人がキリストに立ち返ったと言われている。）

【沈黙大学／J.R.ミラー】

男であれ、女であれ、静けさは力のしるしである。騒がしきは雄弁ではない。大声は力とはならない。生活のあらゆる分野において、静かな力こそ最も有効に働く。だから、強くなりたければ静まることを学ばなければならない。

【この教会のビジョン (3)】

※聖書66巻を神の言葉と信ずる聖書信仰に立って宣教の業を推し進めて行く。

通常「聖書が誤りなき神の言葉である」ということを確信するよりも前に人は信仰に入ることが多いのですが、実はそれから時間が経ちます。ご安心を。神は私たちに「盲目的に信ぜよ」とはただの一度も言われません。むしろ頭と心を使い、神の約束が確かかどうか試すよう何度も私たちに呼びかけます。そして「私の神との歩み」という「歴史」の上に己の信仰を築くように勧めるのです。だからこそデポジションを通して忠実に聖書を読み続け、毎日聖書を生活に当てはめていくことが大切になってくるのです。●もう一つ眺めることの出来る「歴史」があります。それはキリスト教会の歴史です。結局、教会史上、聖書の教えに付け足しをしたり、割り引きをして来たムーブメントは墮落したり腐敗したり消滅したりして来ました。限界までくると戻るバネのように、教会はその歴史の中で繰り返しこの66巻の聖書に舞い戻って息を吹き返す、リバイバルして来たのです。■